

マンスリーサポーター
まるクルー
募集中!

活動を応援する仲間になってください!

まるオフィスでは、気仙沼の次世代を担う子どもたちに「わくわくする人生」を創る力を届ける活動を行っています。将来の社会を担う人材の輩出に向けて、皆さまからのご支援を受けております。



マンスリーサポーターになるには、こちらからお手続きください。毎月1,000円からお選びいただけます。

http://maru-office.com/support_donation



銀行口座

その都度、自由な金額 気仙沼信用金庫 本店 (店番 001)
でのご寄付もありがた 普通預金 / 口座番号 0002218 / 社)まるオフィス
くお受けしています。 お振込者名の前に「キフ」とご明記ください。例「キフケセンヌマタロウ」



あなたの応援はこの活動になります。



活動の詳細は、P4~P5をご覧ください。

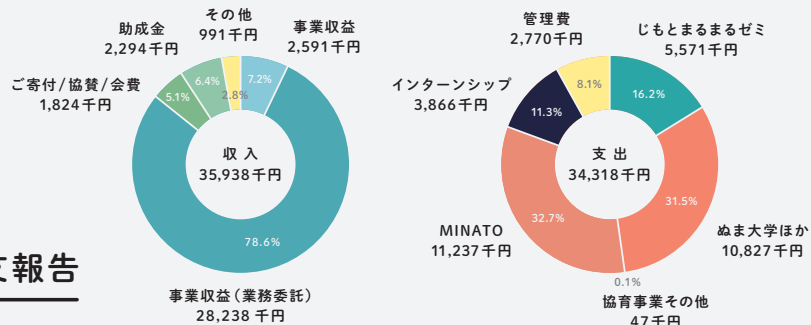


マルクワ ANNUAL REPORT 2018

一般社団法人まるオフィス 年間レポート2018



収支報告



マルクワ ANNUAL REPORT 2018

発行日：2019年3月31日

発行：一般社団法人まるオフィス
デザイン：荒屋デザイン 小野寺真希
お問い合わせ：メール・info@maru-office.com
住所・宮城県気仙沼市唐桑町宿浦 232-2

当誌は、以下の事業・助成を活用し発行しています。
平成30年度みやぎ地域復興支援助成金
平成30年度気仙沼市担い手育成支援事業

2018.04 - 2019.03



一般社団法人まるオフィスについて

地元からわくわくを

津々浦々の多様な地元から わくわくする人材が 輩出されている社会を

一般社団法人まるオフィスは、宮城県気仙沼市で活動するまちづくり会社です。東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と地元若者が2015年春に立ち上げました。教育や移住推進などを通して地域の人材育成や持続可能性の仕組みづくりに挑戦します。

まるオフィスの事業

① 協育の仕組みづくり事業

| | |
|---|--|
|  | 中高生向け じもとまるまるゼミ P.4 |
|  | 若者向け ぬま塾・ぬまトーク ・ぬま大学 P.6 |

まるオフィスの役割

地域ぐるみで人材を育て、
還流が生まれる仕組みをつくる
地域の仕掛人(ローカルマネジャー)
になります。

宮城県気仙沼市について

宮城県最北東端の太平洋沿岸位置する気仙沼市は、人口およそ6万3000人のまちです。豊かな自然の恵みや景観、そして世界に開かれた港町が築いてきた歴史や文化が受け継がれています。



② 人材還流の仕組みづくり事業

| | |
|---|---|
|  | 気仙沼市移住・定住 支援センター MINATO P.7 |
|  | 気仙沼実践型 インターンシップ P.7 |

「豊かな人生って選択肢の多い人生だと信じています」

「集落コミュニティは夢を諦めさせる装置だ」という言葉を知っていますか？とある先輩に教えてもらい、衝撃を受けたのを覚えています。米屋の息子は米屋を、豆腐屋の息子は豆腐屋を継いでもらわないと困る。それを私は東京で医者になりたい、ニューヨークでアーティストになりたい、なんて言われてもその集落が困るというのです。確かにそうだと思います。

なるほど、「いなか」は長男の夢を諦めさせることで持続性を保ってきたのかもしれない。とすると、これだけ情報が氾濫し、個人の自由が認められた時代に「いなか」は合わないワケです。限界集落化するのも仕方ないワケです。

一方、まるオフィスはローカルの潜在価値に注目してきました。一見多様な社会に見える都市ですが、その多様性を輩出しているのは津々浦々の「地元」ではないか、という仮説です。

小さな社会の中に多様性の詰まったローカルがひとつひとつ生き活きていることこそ、社会全体の「わくわく」を創っているんじゃないかとすると、集落コミュニティは再定義を求められています。

20世紀の集落は若者の夢を諦めさせることで持続性を担保してきたなら、21世紀の集落は若者の夢を広げることを持続性に挑戦したい。子どもや若者にとって気仙沼は「夢を広げる装置」でありたい。そんなことを夢見るようになります。

そこで2018年度は団体理念を刷新、「地域に自分ゴトを」というスローガンを「地元からわくわくを」というスローガンに変えました。「地域が人とどうあるか」から「人が地域でどう育つか」へ、重心を少しズラした年になりました。生まれて4年、最大の進化かもしれません。

AI日く、日本の社会はあと6~8年後には「都市集中」が「地方分散」の選択を迫られるという話は知っていますか？そこが両者のシナリオの分岐点となり、もう選択し直すことはできないそうです。前者も後者も一長一短ですが、私たちは後者のシナリオの方にわくわくしています。

そのために「人材」に焦点を当て、気仙沼というローカルで挑戦し続ける決意です。

豊かな人生って何でしょう？それは Society 5.0 に向けて激変していく社会の中で、選択肢の多い「選べる」人生だと信じています。選択して変化できる個体こそたくましく生きていくなでことは昔っから言われています。わくわくしながら時代の潮の流れを読んで仲間と一緒に航海を楽しめる、そんな人材が気仙沼から輩出され続ける未来は創れます。それだけは信じ切っているバカモノ集団まるオフィスを、これからもどうぞよろしくお願い致します。



一般社団法人まるオフィス
代表理事 加藤拓馬

2018年度の 協賛企業・助成金





地元からはじまるわくわくする人生を。

じもとまるまるゼミ

まるゼミは、公式サイトや SNS でも情報発信をしています。ぜひご覧ください!!

じもとまるまるゼミ



LINE@ はこちら



2018年度 7大ニュース! 進化するまるゼミ

ニュース 1 唐桑中学校まちづくり学習会 唐桑中の総合学習コーディネーターに就任!



ここがポイント!

○唐桑の全中学生にアプローチできるようになりました。○2-3年かけて非公式に学校をサポートしてきたことが認められ、市教育委員会と一緒に先進的な仕組みを創ることができました!

18年度より公民館から委嘱を受け「コーディネーター」として中学校の総合学習の授業をサポート(法人としては当地域初)。「唐桑地域学校協働本部」を設立、地元住民や専門家を招きながら先生と一緒にワークショップ等の設計を行います。

ニュース 2 はやまのふもと 空き家を改修して地域教育の拠点づくり!



ここがポイント!

○まちづくり協議会とのコラボで、高校生~若者 まで地域住民が参画しているプロジェクト!

唐桑町の体験&実践型地域塾「はやまのふもと」は、唐桑半島の漁師体験プログラムとして市全域で学校の中でも様々な教育事業を提供しています。そんな急7つのニュースにまとめました!

ニュース 3 体験型地域塾「からくわのまるまるゼミ」 まちづくり協議会と共催で再出発!



唐桑で漁師・農家体験ほかも引き続き実施しています(3年目)。18年度から唐桑町まちづくり協議会と共催。地元のくらしがい・はたらきがいを暴いて伝えていきます。

計10回のべ参加者数45名(小中高生)

ニュース 4 気仙沼高校フィールドワーク・アドバイザー 気仙沼高校で放課後相談会!



気仙沼高校にも進出! 17年度末から「フィールドワーク・アドバイザー」として加藤拓馬が校内で放課後相談会を開催。有志で相談にやってくる高校生の探究活動に対してアドバイスを行っています。

ニュース 5 気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード 高校生の挑戦を応援する仕組みが加速中!



ここがポイント!

○NHKの協力で市や高校と先進地島根県海士町を視察。○2期目にして150名の来場者。市町単独主催での高校生マイプロジェクトアワードは全国唯一の事例に!

高校生が自分だけの企画「マイプロジェクト」を磨いて発表するアワードを開催。気仙沼市担い手育成支援事業による主催で、市教育委員会、NPOと協働で進めました。夏合宿から約半年間、高校生をサポート。前年7名を大きく上回る24名が参加。

ニュース 7 気仙沼 YEG 地域教育事業 若手経営者と出前授業へ!

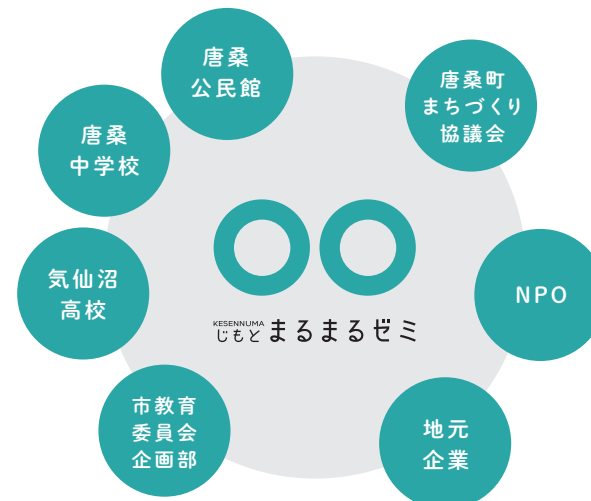


気仙沼商工会議所青年部(YEG)とコラボし、若手経営者らが中学校で生徒たちに「はたらきがい」を伝える授業をコーディネートしました。

実施校: 大谷・面瀬・新月/生徒数: 約130名/事業者数: 10社

ここがポイント!

○仕事の魅力を伝えたい事業者と職場体験の受入先を探す学校のニーズが合致!



ニュース 6 けせんぬま未来ゼミ 未来にわくわくしてる? 珍企画スタート!



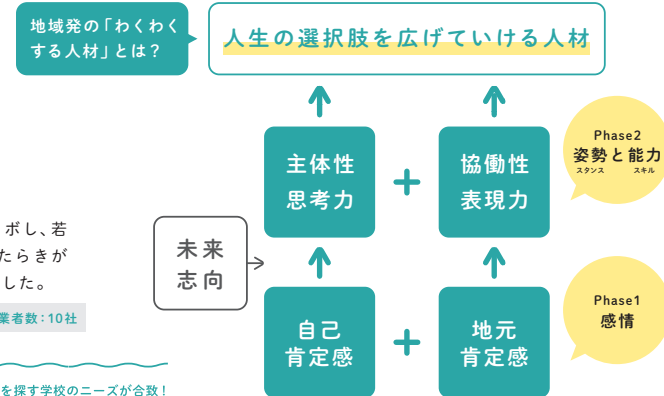
ここがポイント!

○高校生の主体性を育む前段として未来に対してプラス志向を抱いてもらおうとスタート!(メソッド参照)○番組上映や日本IBMからオンラインのゲスト招へいなど多様なコンテンツ!

高校生と一緒に「未来」について考える企画が始まりました。約月1回、認定NPO法人底上げと共催で未来を拓くツールやサービスに触れて学んで高校生の「未来リテラシー」を高めていきます。テーマはVR、AI、SNSなど全8回。

まるゼミメソッド2018

「わくわく」を育むために大切な要素とフェーズをまとめました。



気仙沼に暮らす10〜30代の若者を対象に「学びを得る」「仲間と出会う」「地域の魅力や課題を発見する」「やりたい」気持ちを応援するプログラムを実施し、地域で活躍するまちづくりの担い手育成に取り組んでいます。

ぬま塾・ぬまトーク

気仙沼で活躍している先輩の話を聞く、気仙沼について同世代で語り合うことを通して、気仙沼について知る・考えるイベント。

ぬま塾、ぬまトークを全8回開催！参加者はのべ203人！

ぬま塾は5回、ぬまトークは3回開催。ぬま塾では、漁業関連の輸出業を行う会社や、遠洋まぐろ延縄漁船事業を行う会社、造船会社等、港町・気仙沼を支える会社の経営者からご自身のライフストーリーを伺いました。

ぬまトークvol.13の参加者は過去最多の49名！

テーマは「若者×市役所で地域課題解決!?!」。市役所の課長3名から行政のお仕事やまちの課題について聞いた参加者は、「自分ができること」を考え共有しました。官民連携の第一歩を感じさせる熱い場となりました。



ぬま大学

「気仙沼で何かやってみよう」そんな想いをもつ若者が約半年間、自らが気仙沼で実行するプランをつくりあげていく実践塾。

第4期を開催！10名の若者がマイプランを形にしました。

地元企業の若手社員、地域おこし協力隊、仙台の大学に通う学生等の多様な若者10名が集まり、「福祉現場の課題解決」「観光の活性化」「自社の情報発信」という様な十人十色のマイプランが生まれ実践が行われました。

第4期最終報告会に過去最多の155名が集まりました！

受講生が半年間つくりあげてきたプランを発表する最終報告会。例年は100名前後のところ、18年度は150名を超える方にお越しいただきました！まちのなかで「若者のチャレンジ」への関心が高まってきています。



4期生紹介



金野諒さん(30)
気仙沼出身

福祉施設と地域との壁をなくし、障害者と地域の人をつなぐ機会をつくるプランを発表。施設職員、地元の若者に協力を募り、地域の子どもが施設を訪問して利用者として交流するイベントを開催。現在は協力者を増やす為に職場内で普及活動を行う。



昆野哲さん(28)
気仙沼出身

気仙沼唯一の銭湯「友の湯」を銭湯シェアハウスにリノベーションし、地元民と移住者のかけ合わせを生み出すプランを発表。4人のチームで、銭湯周辺のまち歩きや銭湯でのイベントを開催。現在はリノベーションに向けて準備を進めている。

ぬま大学卒業生の今



高橋裕子さん(31)
気仙沼出身

保育士として働かなかで子どもの身体能力の低下を感じ、幼少期の子どもでもバスケットボールで楽しく遊べる「ちびバス広場」を月1回のペースで開催中。



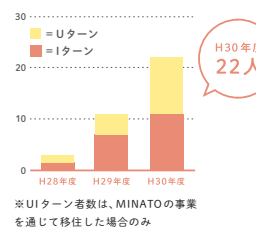
富永めいさん(29)
千葉県出身

「ちくちく工房」という子ども向け刺繍ワークショップを開催。わくわくする気持ちと失敗を恐れずに挑戦する気持ちを大切に、子どもが自由に表現できる場をつくる。

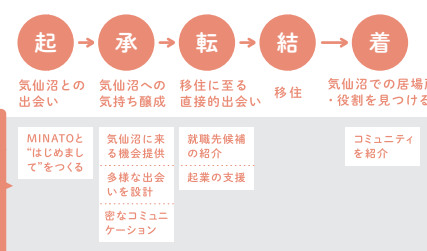
月に1回ぬま大学卒業生が集まって近況報告・情報交換を行う場「よもぬま」の開催を始めました！

近年、まちに住む人たちのパワーに惹かれて集まってくる移住者が増えています。震災を経験した気仙沼だからこそ生まれた新たなものを生み出すエネルギーや何かが起こりそうなくわく感。MINATOでは、UターンやIターンの相談から移住後の定住支援まで、ひとりひとりの想いを形にするサポートをします。

3年間のUターン者数



移住までの物語「起・承・転・結+着」



移住モデル
木下徹哉さん
愛知県出身
大学在学中、長期滞在型プログラムに参加したことがきっかけで気仙沼が好きになる。就職活動をする中で気仙沼での暮らしを考えるようになり、移住フェアでMINATOに相談。現在市内の企業で働く。

承 転 の取り組み しごととカフェ+企業訪問ツアー

少しでもわくわくしてUターンするために、仕事の話は欠かせません。MINATOは18年度、しごとに纏わる活動に力を入れました。

「けせんぬましごとカフェ」：仙台の若者に気仙沼での仕事と暮らしの今を伝えるイベント / 企業訪問ツアー：1泊2日気仙沼の企業と人に出会うツアー



着 Welcome party

新規Uターン者と地元で活動する若者をつなぐ場として気仙沼市内で開催している交流イベント。様々な「移住・定住サポーター」団体が、「気仙沼生活がより楽しくなる」活動を紹介。18年度は総勢54名が参加し、地域とつながるきっかけを見つけました。



どうせやるなら“本気”の現場へ。本気の仕事が、ここにある。

気仙沼実践型インターンシッププログラム

1ヶ月以上の一定期間、学生が気仙沼の企業の課題解決に取り組む実践型インターンシップ。2015年度から始動し、4年目を迎えました。気仙沼の未来に向けて頑張る企業の現場に若者が入り、企業と共に課題解決に取り組むことを通して企業により活力が生まれ、若者は将来のために成長できる。そんな機会の提供を目指しています。

実施実績

夏期 2018年8月～9月 春期 2019年2月～3月

受入企業：全7社

株式会社菅原工業、株式会社石渡商店、株式会社岡本製氷冷凍工場、株式会社パートナーズ、アサヤ株式会社、NPO法人浜わらず、pensea

参加学生：12名

一橋大学、東北大学、横浜国立大学、徳島大学、東北芸術工科大学、慶應義塾大学

受入企業：全4社

株式会社菅原工業、株式会社石渡商店、株式会社岡本製氷冷凍工場、株式会社パートナーズ

参加学生：8名

東京大学、横浜国立大学、宮崎大学、東北芸術工科大学、青山学院大学、米子高専



実施事例

水産と観光の融合！氷を使った新たな観光産業の創出プロジェクト！
(株式会社岡本製氷冷凍工場)

岡本製氷様が運営する観光施設「氷の水族館」活性化のため、夏・春期それぞれ2名のインターン生が企画を立案。春期は、氷の水族館を使った体験型イベント「フローズントレジャーハント」を開催。小中学生を対象に企画立案や広報、当日運営を行い、昨年対比1.5倍の集客につながりました。

